

学 校 名：観音寺市立観音寺東小学校
 校 長 名：植田 良三
 所 在 地：〒768-0060
 香川県観音寺市観音寺町甲 670 番地 2
 電 話 番 号：0875(25)2219
 研究担当者：細川 京子

1 学校の実態

(1) 学校の特徴

本校は、「かがやきタイム」の時間を設定し、基礎的な学力の向上をはかるとともに授業改善に取り組み、「伝え合う力」や「人間関係力」を育てる学習指導の工夫にも取り取り組んできた。

また、地域の自然環境を生かした総合的な学習の時間など、豊かな体験活動へも取り組んでいる。

(2) 学校概要

本校は観音寺市の東部一帯を学区としている。由緒ある町並みと新しい住宅地が共存しており新しさと歴史を感じさせる町づくりも進んでいる。また、市役所などの官公庁や高校も隣接しており市の政治、経済、教育の中心地となっている。

家庭・地域の教育に対する期待は大きく、本校教育活動に対しても協力を惜しまない。

(3) 教育課題

児童の実態として、学年が進むにつれて学ぶ喜びや意欲が低下する傾向が見られる。また、繰り返し練習を面倒がり、家庭学習時間も減少している。さらに、自分の意見や考えをもち、自ら判断し行動しようとする姿勢に欠けることがある。

そこで、学習意欲の向上を図るとともに、自分の思いを適切に伝え合う力を高めるため「思考力・表現力」を育成したいと考えた。

2 研究の特色及び概要

(1) 研究主題

学ぶ意欲と思考力・表現力を高める
学びの創造

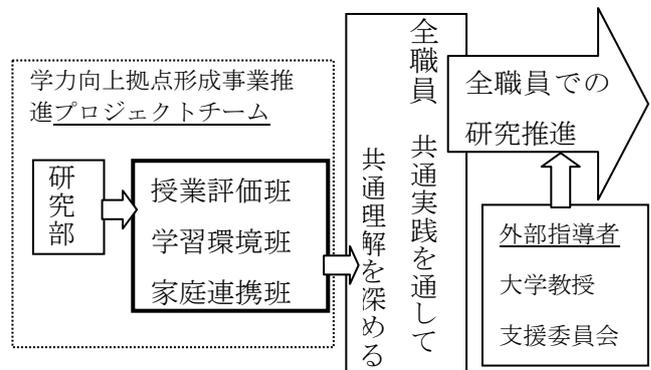
(2) 研究のねらい

育てたい学力を、学習対象や学習することへの

興味・関心、意欲としての「学ぼうとする力」、基本的な学習スキルや学習の質や幅を広げるための思考力・表現力としての「学ぶ力」、学んだ結果としての知識・理解であり、新たな学習に活かす力としての「学んだ力」と捉えた。また、この3つの力が相互に補完し合うことで豊かで上質の学習が成立すると考えている。

そこで、このような学力を身に付けた児童の育成に向け「学びを支える基礎づくり」「学びを高め合う授業づくり」と「指導力向上を目指した職員研修」に取り組んでいる。

(3) 研究組織



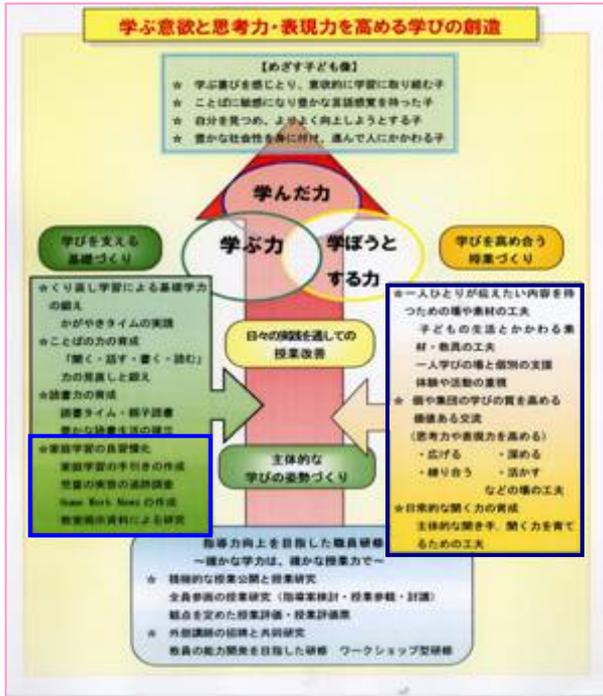
(4) 2年間の研究の経緯

① 平成17年度



学びを支える基礎づくりでは、聞く・話す・書く・読む力を鍛え、ことばの力を鍛えようとした。また、授業づくりでは学習意欲の喚起とともに、学びの質を高める体験活動を工夫した。

② 平成18年度



一人学びの場と交流の場を意図的に設定し、授業改善に取り組んだ。また、新たに家庭学習の良習慣化づくりに取り組んだ。

3 本年度の取組

(1) 研究の実際

① 学びを高め合う授業づくり

～当たり前のことをていねいに根気よく～

【一人ひとりが伝えたい内容を持つための場や素材の工夫】

4年「電話で伝え合おう」の実践より

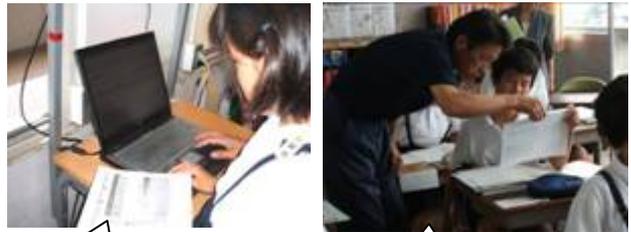
【個に応じた指導過程や教材・教具の工夫】

1年「サラダでげんき」の実践より

活動の見通しがもてるよう学習のスタイルをパターン化
音読→好きなどころ
→ペアで話し合い
→全体→振り返り

【一人学びの場の確保と個別の支援】

6年「伝え合おう わたしの意見」の実践より



急な調べ活動にも対応できるように(コンピューターの常設)

個のつまずきを予測し、適切な支援を!

【一人ひとりの学びをもとに話し合う等

交流活動の場の工夫】

5年「人間の生き方を考えながら読もう」の実践より

※ パネルディスカッションなど、学習の形態も工夫

【相手理解や情報の取捨選択のために必要な

聞く力を身に付けさせるための工夫】

4年「電話で伝え合おう」の実践より

※比較しやすいように板書にも提示

② 学びを支える基礎づくり

～集中して、めあてを持って～

【かがやきタイムの実践】

ア ねらい

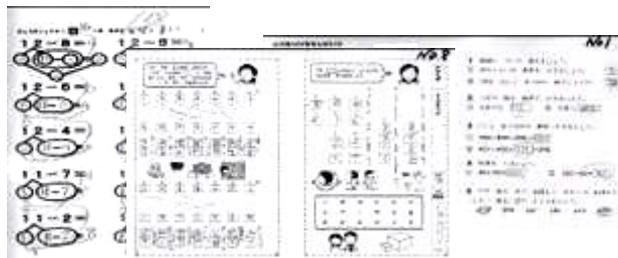
- ・「読み、書き、計算」の習熟と集中力育成。
- ・言葉や表現力の基礎的なスキル習得と伝え合うことの楽しさを味わう。

イ 方法

- ・毎週3時間（火・水・木）1校時を「かがやきタイム」と位置づけ、全校で一斉指導。
- ・15分と30分の2コマを1単位とする。
- ・15分は、漢字・計算に関する反復練習。
- ・30分は、「言葉」（音読・暗唱・視写・聴写・新出漢字練習）と「表現」（作文・話す・聞く・伝え合う等のスキル学習・表現活動）、「算数の習熟学習」等を行う。

ウ 評価

- ・漢字（読み・書き）計算については、学年ごとに目標値を設定し、それをもとに毎月月末テストを実施して定着度を評価する。
- ・保護者の方に「かがやきタイム」を参観していただき児童の様子を評価していただく。
- ・かがやきファイルに表現物等を蓄積し、中・長期的な視点から「言葉」と「表現」の変容を自己評価及び相互評価する。
- ・モデル教材を使って理解状況を把握する。



＜反復練習用プリントの例＞



＜記録を残して意欲化を図る＞ ＜集中して真剣に＞

【豊かな言葉の力を育む教育環境】

ア いろいろな図書の充実と活用

- ・言葉や音読のおもしろさが感じられる図書
- ・国語の教科書に紹介された発展的な図書
- ・各学年の調べ学習に関連した図書
- ・興味・関心を持って読める仕掛け絵本など

イ 豊かな言語感覚や心情を育む

読み聞かせ活動

- ・担任や保護者ボランティア「はまひるがの会」のお話会



ウ 全校生で取り組む俳句づくり

感じたことを素直に表し、表現する喜びと言葉のひびきやリズムのよさを味わう。

【家庭学習の手引きの作成と実践】

家庭学習とは……教師からあたえた宿題と、宿題とは別に内容・量を自分で考えて自主的に行う自主学習の両方をいう。家庭でする全ての学習を意味する。

ア 児童の実態把握のためのアンケート実施

- ・教師と保護者へのアンケート

イ 学習に生かす自主学習の内容の検討

ウ 自主学習の勧め（手引きづくり）

保護者のアンケート結果をふまえ、宿題の充実を図るとともに、手引きを作り自主学習を勧めた。同時に「Homework News」を定期的に発行し保護者啓発に努めた。



＜「Homework News」より抜粋＞

③ 指導力向上を目指した職員研修

～意識・スキルの向上～

【積極的な授業公開と授業研究の充実】

○ 授業評価表の活用

校内研修の研究授業においては、授業参観の視点をはっきりさせて討議の臨めるように授業評価表を作り、それをもとに話し合った。

○ 全教師の参画による研究討議

研究授業の討議はワークショップ方式で実践。KJ法・概念化シート・指導案拡大シートなど様々な手法を目的に合わせて選択して実施した。

○ 外部講師の招聘と共同研修

今年度も、主に鳴門教育大学大学院教授村川雅弘先生をお招きして研修を行った。先生の指導のもと話し合い、全教師が様々な立場から意見を出し合うことができた。さらに共通課題についても認識することができた。



4 研究に対する評価

(1) 研究の成果

- ① 伝え合う力を支える言葉の力を継続的なスキル学習や読書指導で鍛えるとともに、一人学びや交流活動の場を積極的に取り入れるなど、共通理解のもと授業改善に取り組めた。
- ② 家庭との連携によって自主的な学習態度づくりに努め、家庭学習の良習慣が定着しつつある。
- ③ 参画型の校内研修方式を取り入れ、研修の活性化を図った。全教師の意見を交流することができ、成果や課題も明らかになった。

(2) 成果の分析・評価

学習状況調査等の結果からは、各学年とも概ね基礎・基本的な学習内容は定着している。

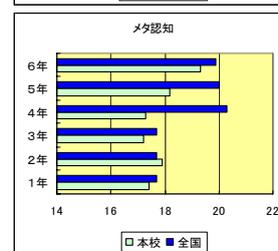
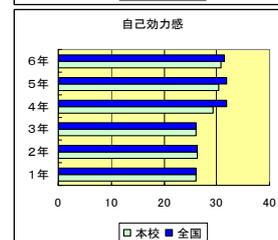
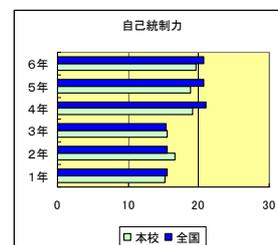
【AAI（学習適応性調査）結果より】

しかし、高学年になるにつれて学習への意欲が低下し、家庭での学習の様子もあまり積極的でない。ここから、子ども達は学校でも家庭でも「やらされる学習」になりがちである姿がうかんできくる。

これは、学習を支える力である「自己効力感」「自己統制力」「メタ認知」が十分に育っていないためだと考えられる。

今後は、全ての教育活動を通じて3つの力を育てていくことが必要である。

特に、日々の授業においては一人ひとりの児童に学びが成立しているかという視点を大切にし、個々の学びの質を高めることが必要である。



5 課題及び研究成果を生かした次年度の取組

- ① めざす授業や育てたい力を具体的な子どもの姿として全職員が共有し、より実践的で協働的な研究を推進する。
- ② 学習を支える力としての「自己効力感」「自己統制力」「メタ認知」を高めるための学習指導のあり方を研究する。
- ③ 家庭との連携を深め、児童が学習意欲を継続できる家庭学習の在り方や良習慣の確立への手だてを探る。
- ④ 研究者と協働的な授業改善の在り方を共同研究し、研修の質を向上させる。

<参照できるホームページアドレス>

<http://www.niji.or.jp/school/higasi/>
(観音寺市立観音寺東小学校)